

## 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第58回本部会議 記録

日 時／令和3年6月10日（木）

16：00～16：26

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

### 【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第58回本部会議を開催いたします。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

### 【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。

主な指標の状況でございます。道独自の警戒ステージの指標についてでございますが、昨日時点で、全ての指標で1週間前の値を下回っているという状況でございます。特定措置区域の主な指標の状況ですけれども、昨日時点で、石狩振興局の検査陽性率が横ばいなのを除きまして、全ての指標で1週間前の値を下回っている状況です。

国の分科会提言で示されております新たな指標についてでございますが、昨日時点の数字を見ますと、全道において、確保病床の使用率、入院率、療養者数及び新規陽性者数の4つの指標で、国のステージIVを上回る状況が続いております。

道内の感染状況ですが、5月下旬以降、減少が続いておりますが、昨日までの直近1週間では1,408人、人口10万人当たり26.5人となっております。なお、本日の全道の新規感染者数は182人となっております。人口10万人当たりで見ますと24.3人と25人を下回ったという状況でございます。なお、リンクなしの割合ですけれども、昨日時点で31.2%という状況です。

次のスライドですが、札幌市です。人口10万人当たりは45.3人ということで、依然として高い水準でございます。リンクなしの割合は33.2%という状況です。次に、石狩振興局です。昨日までの1週間で38.1人、リンクなしの割合は23.6%という状況です。次に、小樽市の状況です。昨日までの1週間で27.5人、リンクなしの割合は31.3%。最後に、旭川市の状況ですが、昨日までの1週間で、10万人当たり17.5人、リンクなしの割合は30.5%という状況でございます。

続いて、特定措置区域と措置区域で分けての新規感染者の状況ですけれども、ご覧のとおり減少傾向にございますけれども、特定措置区域については、10万人当たり40.2人と依然として高い水準にございます。

地域別の感染状況です。1週間の新規感染者数は、前の週と比べますと、ほとんどの地域で減少しているという状況でございます。

発症日別で見た新規感染者数ですが、先月中旬がピークとなっております。その後、減少傾向が継続しているという状況でございます。

年代別の感染者数ですけれども、10代から30代までの若い世代は、全体の3割を下回るという状況が続いております。

監視体制です。検査数は、足元では減少傾向にございまして、昨日までの直近1週間で、27,208件ということで、陽性率は低下傾向にございまして、昨日時点で5.2%という状況

でございます。

医療提供体制等の負荷の状況です。入院患者数ですけれども、昨日時点の入院患者数は1,006人と高止まりの状況になっています。また、重症者の状況ですけれども、こちらについては減少傾向でございます。昨日時点で36人ということではございますが、昨年末に感染拡大した時期におけるピーク並みの高い水準が続いているという状況でございます。

集団感染の発生状況です。5月は件数、人数ともに過去最多を更新しておりましたが、6月に入っても事業所等で発生が継続しているという状況です。特定措置区域とそれ以外について、1週間ごとの発生状況を見ておりますけれども、ここ3週間は減少傾向にございまして、特に人数の減少幅が大きいという状況でございます。

引き続き、ワクチン関係の取組状況です。まず、医療従事者向けのワクチンの接種状況ですけれども、昨日現在、1回目の接種を終了した方は、3月までに接種希望者リストが提出されております20万2千人に対しまして、102.7%ということで、2回目の接種を終了した方は、約14万5千人で、摂取率は72%という状況です。高齢者向けのワクチンの接種ですけれども、1回目の接種を終了した方は、約37万9千人で、本道の65歳以上の高齢者約166万人に対しまして、22.9%、2回目の接種を終了した方は約4万人で、2.4%という状況でございます。直近1週間における接種回数ですけれども、約22万9千回となっておりまして、1日当たりの平均で約3万3千回となっておりまして、接種回数の推移を見ますと、5月中旬以降、医療従事者等は横ばい、高齢者は増加傾向が続いているという状況です。

その他のワクチン関係の取組でございますけれども、高齢者向け接種につきましては、高齢者の方々に、1日も早くワクチン接種を受けていただくため、市町村が行います集団接種に対する支援に加えまして、医療機関での個別接種や集団接種の実施の働きかけに取り組んでおります。また、感染状況が極めて深刻な状況にあり、人口が集中し、道内感染者数の3分の2を占める札幌圏におきましては、道医師会等と連携、協力の下、今月19日から来月末までの予定で、集団接種会場を設置いたしまして、来週14日から予約受付を開始する予定でございます。

職域接種の関係でございます。一昨日の14時から、国のウェブ申請フォームにおきまして、職域接種を希望いたします企業等からの受付を開始しているところでございます。職域接種を希望する業界団体の要請を踏まえまして、ウェブ説明会により制度内容等の周知に取り組んでいくこととしております。

道におきましても、対策本部指揮室ワクチン班を増員いたしまして、指揮室と本庁各部、振興局が連携し、実施を希望する企業や市町村への受付・支援体制を構築したところでございます。また、道のホームページにおきまして、国の申請フォーム関連窓口へのリンクなどの情報を掲載させていただいております。

接種促進に向けての様々なサポートの動きでございますけれども、ワクチン接種のオンライン予約について、デジタル機器に不慣れな方へのサポートが一つの課題になっておりますことから、携帯ショップの自主的な取組として、オンライン予約のサポートを実施しているところでございます。また、一部の相談事業所や薬局、ボランティアなどが、高齢者の予約サポートを実施しております。今後、こうした取組を広げ、高齢者の方が身近なところでサービスを利用できるよう取り組むこととしております。

続いて、全道の主な人出の状況でございます。まず、札幌駅周辺の人出でございますが、緊急事態宣言前の先月15日と比較いたしますと、15時、20時ともに減少しておりますけれども

ども、ご覧のとおり足元では、やや増加傾向となっております。次のスライドです。すすきの駅周辺ですけれども、札幌駅周辺と同様に昼・夜ともに下がってはございますが、足元で増加が続いております。注視が必要という状況でございます。スライド24から29につきましては、他の主要都市についての人出の状況でございます。同じように今回の緊急事態宣言前と比較いたしますと、旭川駅、函館駅、帯広駅、釧路駅の周辺につきましては、共通して、夜の時間帯で減少していることが見られる一方、小樽駅、苫小牧駅につきましては、昼・夜ともに増加している状況でございます。警戒が必要な状況です。

最後に総評です。まず、感染状況ですけれども、全道的に新規感染者数は減少が続いておりますものの、引き続き、高い水準となっております。特に、特定措置区域の石狩振興局管内では、病院、社会福祉施設、学校等の集団感染も継続して発生しております。新規感染者数は、10万人当たり約40人と依然高い水準でございます。小樽市及び旭川市では、新規感染者数は改善が見られるという状況です。また、措置区域の感染者数も減少傾向にあるという状況です。人流ですが、6月に入り、増加している地点が見られる状況です。

医療提供体制です。自宅や宿泊施設療養を含めた療養者数は減少してきておりますものの、引き続き、高い水準にありまして、入院患者数についても高い水準が続いております。特に札幌市内においては、入院の調整が困難な状況にあるなど、医療の限界とも言える状況は続いている状況です。一部の地域の基幹病院等におきましても、その機能を維持することが厳しい状況にございまして、怪我や急病など通常の医療が直ちに受けられなくなる恐れがある状況が続いています。

ワクチンでございます。先ほどご説明いたしましたとおり、医療従事者への接種については、1回目102.7%、2回目72.0%が終了している。また、高齢者については1回目22.9%、2回目2.4%が終了しているという状況です。

デルタ株のスクリーニング検査の関係ですけれども、今月4日から、道立衛生研究所におきまして検査を開始いたしましたほか、昨日現在、PCR検査が可能な10の道立保健所のうち、9の保健所におきまして、デルタ株スクリーニング検査体制を整備済でございます。今週中に、残り1保健所についても整備予定でございます。

今後の対策です。新規感染者数の減少傾向を確実なものとするため、引き続き、全道域で人と人との接触を徹底して抑えるための対策を実施し、特に、特定措置区域において、飲食店等への見回りや普及啓発などの対策に継続して取り組みますとともに、札幌市内においては、さらなる徹底のほか、さらに、人流の増加傾向が見られますことから、特に週末に向けて、外出を控えるよう、徹底した呼びかけを行うこととしております。また、来道を検討されている方々に対しましては、来道を極力控えるよう呼びかけますとともに、道外に拠点のある企業など、道が有する様々なネットワークを通じて協力を働きかけることとしております。

自宅で療養される方に対しましては、食品や日用品セットの配付やパルスオキシメーターの貸与に加えまして、保健所におけます健康観察の徹底や必要に応じた在宅医療の提供など、万全の支援を行ってまいります。

ワクチン接種の関係ですが、希望される方が1日も早く接種を終えることができますよう、道医師会や札幌医科大学などとの連携の下、札幌圏に集団接種会場を設置するほか、引き続き、市町村支援や職域接種への対応を進め、ワクチン接種の促進を図ってまいります。

更に感染しやすい可能性があるデルタ株について、道所管分につきましては、原則、感染経路不明の陽性者の全ての検体の検査を実施し、札幌市など保健所設置市との連携を図

りまして、デルタ株の監視体制を強化してまいります。

資料1については、以上でございます。引き続き、お手元の資料2をご覧くださいと思います。

先ほど説明しました資料1につきまして、専門家及び有識者のご意見をお伺いするとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところでございます。

有識者、専門家等の皆様からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますけれども、その主なものについてご紹介いたしますと、(1-④)全体として感染者は減少傾向だが、そこから遅れて重症化してくるので、継続してしっかり対策し、感染を減らすことが重要といったご意見や、その次の次ですが、デルタ株の検査につきましては、特に人口が多く、感染が容易に伝播する札幌市等の保健所設置市での検査を強化するよう、道としても市と連携して取り組むことが必要といったご意見をいただいております。

また、ワクチン接種の関係では、(1-①)や(1-⑤)にございますけれども、ワクチン接種の更なる加速を求めるようなご意見、また、(1-②)や(1-③)のように、地域における接種体制の充実に向けた支援を求めるご意見などといったものが寄せられてございまして、こうしたご意見につきましては、今後の対策に活かしてまいりたいと考えてございます。

私からの説明は以上でございます。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

#### 【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明いたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。

1週間の新規陽性者数の合計につきましては、5月23日には2,600人まで増加いたしました。その後は減少傾向にありまして、昨日の6月9日時点では879人と、ピーク時の3分の1程度となっております。また、1日の新規陽性患者数につきましては、2桁台になる日が確認されるなど、新規感染者数は着実に減少しつつあります。しかしながら、人口10万人あたりでは45人となっております。北海道の警戒ステージ4相当の目安となります。人口10万人あたり25未満という数字に比べますと、45でありますので、まだまだ高い水準にあり、安心できる状況ではございません。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況でございます。昨日の6月9日時点の入院患者数は471人となっております。新規感染者数が減少傾向が見られる中、入院患者数は依然として減少傾向が見られておりません。市内医療機関のご協力により、入院受入可能病床数は増えてございますが、現在も病床は常にほぼ満床に近い状態で、入院待機を余儀なくされている方もいらっしゃることから、医療提供体制の危機的な状況は解消されていないところでございます。

それでは次をご覧ください。検査数についてのスライドでございます。直近1週間の検査数でございますが、16,325件、1日平均にしますと約2,300件の検査を継続して実施してございます。陽性率は赤の折れ線グラフでございますが、5月下旬には10%を超えておりましたが、直近では減少傾向になっておりまして、昨日の6月9日時点では、陽性率5.4%でございます。

次のスライドをご覧ください。年齢別の感染者の割合でございますが、全体の新規感染者数は減少しているところではございますが、60歳代以上の割合に増加傾向が伺われ、医療提供体制の影響も懸念されるところでございます。

では、次のスライドをご覧ください。新規感染者の感染経路についてでございますが、個人活動を感染経路とする件数や割合は減少傾向が続く一方で、職場や福祉施設での割合に増加が見られております。また、家庭内の感染でございますが、この事例が全体の4割以上と依然として多く発生している状況でございます。

次をご覧ください。集団感染事例につきましては、薄い緑色になりますけれども、学校の集団感染事例、また、茶色の福祉施設での発生が継続しているほか、直近では会社、職場での集団感染事例が大幅に増加をしております。特に、コールセンターでの集団感染事例が多く発生していることから、施設における換気設備の留意点やマスク着用といった基本的な感染防止対策の徹底について、周知をしたところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌中心部それから札幌駅、大通駅、そしてすすきの駅の人流、いわゆる人出の状況についてのグラフでございます。20時、夜の8時時点の状況でございますが、いずれも大きく減少しているところではございますが、緊急事態宣言を延長しました6月以降、人出に増加傾向が見られているところでございます。

では、次のスライドをご覧ください。このグラフにつきましては、同じく札幌駅、大通駅、すすきの駅の朝の9時時点の人流でございますが、いずれもゴールデンウィーク明け以降はほぼ横ばいではございましたが、6月以降、札幌駅付近の人流に増加が見られているところでございます。

新規感染者数をもう一段減少させまして、感染の再拡大を生じさせないためにも、引き続き危機感を持ち、人と人との接触を避け、できるだけ外出を抑制するなど、人の動きの抑制が必要と考えてございます。札幌市では、Web広告やテレビ放送、市内の大型ビジョン、地下鉄車内・駅構内へのポスター掲示など、幅広い世代に届くような様々な媒体を用いまして、感染拡大防止に関する注意喚起をしているところでございます。

以上でございます。

#### **【副本部長（小玉副知事）】**

次に各部・振興局から、順次発言をお願いいたします。

空知総合振興局長、お願いします。

#### **【白石空知総合振興局長】**

資料は4でございます。まず、空知管内の感染状況でございますが、5月には成人式後の会食によるものなど、集団感染が6件発生したことなどによりまして、5月だけで341名の新規感染者が発生いたしまして、これまで最多でございました昨年11月の185人の約2倍となったところでございます。この間、保健所業務が非常にひっ迫しましたことから、臨時に他課の職員を動員いたしまして、振興局一丸となって取り組んできたところでございます。6月に入りまして、感染者数は減少傾向となっておりますが、リンク不明の感染者の方も散見されているほか、石狩振興局などの特定措置区域に隣接している地域でもございますので、引き続き最大限の緊張感を持って、感染防止対策に努めてまいります。

次に取組内容についてでございますが、成人式後の会食による集団感染や学校での感染者が発生した際など、大人数のPCR検査が必要となった場合には、管内市町から検査会場の提供や、職員の応援といったご協力をいただきながら、臨時PCRセンターを開設し、

検査を実施してきているところでございます。また、緊急事態宣言が決定されました5月15日には、地方本部を開催いたしまして、市町との共同メッセージを発出いたしました。さらに5月19日には、岩見沢市と振興局が連携いたしまして、市内飲食店へチラシを持参し時短営業を要請しましたほか、5月19日からは毎週水曜日に繁華街飲食店の見回りを実施しているところでありますが、20時以降に営業している店は確認されておりません。多大なご協力をいただいております。

最後に広報活動についてでございますが、振興局の広報車を用いまして、毎週金曜日、土曜日に週末の外出自粛等の呼びかけを実施していますほか、岩見沢市や滝川市にある地域FMの協力のもと、地域住民の方々に周知を図っているところでございます。また、ここに記載はございませんが、岩見沢市では市内中心部の街頭スピーカーで市民への呼びかけを実施しているところでございます。

以上、空知管内での取組状況でございますが、今後も各市町と密接に連携しながら、感染防止対策に取り組んでまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局等からご発言ございませんか。なければ、本部長からお話をお願いいたします

#### 【本部長（知事）】

6月20日の緊急事態宣言の期限まで、あと10日でございます。道民の皆様、事業者の方々のご理解、ご協力によりまして、新規感染者数は減少が続いております。道民の皆様、事業者の方々に対して、多大なるご理解とご協力を賜りましたことに、心から感謝を申し上げます。

しかし、本道の感染者数は、引き続き、高い水準にあります。入院患者数も1,006名と依然として多い状況にあります。特に札幌市内においては、引き続き、病床の使用率が高く、医療の非常事態と言える状況が続いております。また、人流が増加をしている地点も見られております。人流が増加していけば、感染者数の増加、リバウンドが強く懸念される状況にあります。

長い闘いで、自粛疲れもあり、また、感染者数の減少に安堵をする、そういう気持ちはあるというふうに思いますが、足下の感染状況は厳しく、医療提供体制は危機的な状況にあること、そして今は、本道に緊急事態宣言が発出されていることを改めて、共有する必要があります。ここで、警戒を緩めることなく、気持ちを一つに、できる限り外出を控えていただく、特に週末は外出を控えていただく、このことについて、道民の皆様、事業者の方々のご理解、ご協力をお願いいたします。

各本部員においては、緊急事態宣言の期間である6月20日まで、感染者数の減少をより確かなものとするため、気持ちを引き締めて、市町村、関係団体の皆様のご協力をいただきながら、あらゆる機会を活用して、粘り強く働きかけるなど、対策の徹底に取り組むように指示をいたします。

特に、引き続き厳しい感染状況にある札幌市の取組が重要であります。札幌市との連携を一層強化をし、人流が増加に転じないように取り組んでください。

その上で、感染状況を慎重に見極めながら、21日以降の対応についても、検討を進めるよう指示いたします。

そして、ワクチンの接種についてであります。道としては、接種の促進が図られるよう、医師会や札幌医科大学など関係者の皆様のご協力の下、集団接種会場を設置をし、来週14日からは予約受付を開始することといたしました。予約や接種に際して、混乱が生じることのないよう、万全の準備を進めていただきたいと思います。

また、8日に職域接種の申請受付が開始をされました。道内においても、既に多くの企業、団体が高い関心を寄せております。対象となり得る企業、団体等は全ての部局、振興局に関係をいたします。道として、支援体制を構築したところではありますが、横の連携をしっかりと図りながら、スピード感をもって取り組むように指示をいたします。

なお、昨日、総理から、11月中にも希望する国民全てに接種を終えたいとの表明がありました。本日、全国知事会において、私から、国に情報提供を求めることなど発言したところではありますが、道としても、ワクチンの供給スケジュールや接種の考え方など、国からしっかり情報収集を行いながら、確実に接種を進められるよう、市町村の支援に万全を期していただきたいと思います。

私からは以上です。

**【副本部長（小玉副知事）】**

本部長から指示があったことについて、各本部員は必要な対応を速やかに行ってください。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第58回本部会議を終了いたします。

(了)